

日本地衣学会 ニュースレター No.122

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信	453
	干支の地衣, 「午(馬)」編 / 坂田 歩美・吉川 裕子・原田 浩	453
	会務報告	
	[第12回大会(京都大学, 2013年7月6-7日)報告(その2)]	
	日本地衣学会大会に参加して/綿貴 攻	454
	第12回地衣類観察会(長野県上田市菅平高原)で観察された地衣類	
	/原田 浩・木下 靖浩・安斉 唯夫・坂田 歩美・陶山 舞	455

会員通信 From Members

干支の地衣, 「午(馬)」編

Lichen names concerning a horse, celebrating a New Year of 2014, year of the horse

/ by SAKATA Ayumi, YOSHIKAWA Hiroko & HARADA Hiroshi

»»»»»»» 坂田 歩美¹⁾・吉川 裕子¹⁾・原田 浩²⁾ : ¹⁾千葉県立中央博物館共同研究員, ²⁾千葉県立中央博物館
本年の干支, 「午(馬)」に因んだ地衣類を探してみ

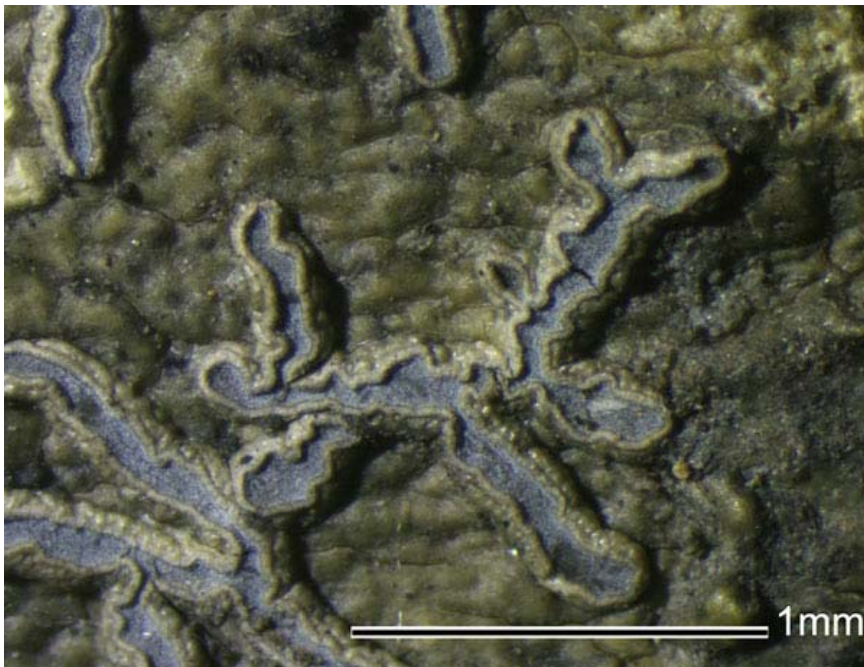


図1. ウマに似ているヘリトリモジゴケ *L. exaltatum* の子器

た。「ウマと名前がつく地衣類はシロウマイワノリ [*Collema shiroumanum* Räsänen var. *shiroumanum*] がある。イワノリ科 (Collemataceae), イワノリ属 (*Collema*) に属する膠質地衣類。外部形態は「ウマ」に似ていないが、白馬岳から採集された標本に基づき Räsänen (1940) によって新種記載され、タイプ産地に因んでシロウマイワノリと名付けられた。そのため、名前に「ウマ」とつく。

ほかに「ウマ」と名前がつく地衣類に、モジゴケ科のヘリトリモジゴケ属がある。え？「ウマ」ってついていないって！？いえいえ、学名は *Leiorreuma*。レイオレウマと読む。もちろん「馬」とは全く関係ない。冷温帯から暖温帯にかけてよく見られるヘリトリモジゴケ *L.*

exaltatum (Mont. & Bosch) Staiger が日本産本属の代表だが、その子器を見ていると(図1)、なんだか馬のように見えてきたから不思議である。

名前に「ウマ」は含まれないが、馬に関係ありそうな名前に、ホグロタテガミゴケ *Alectoria nigricans* (Ach.) Nyl. というのもある。そう、「たてがみ」と言えば、馬。また、ノリクラハナゴケ *Cladonia norikurensis* Asah., ノリ「鞍」ハナゴケ。鞍は馬具。名前の由来は乗鞍岳であって、馬具ではないが・・・。レイオレウマ式にいくならば、「クラ」といえばクラドニア (*Cladonia*, ハナゴケ属), クラディア (*Cladia*, トゲシバリ属), まだ他にもあるが, お話はこのへんで。

会務報告 Report of the JSL Activities

第12回大会(京都大学, 2013年7月6-7日) 報告(その2)

Report of the JSL 12th Annual Meeting at Kyoto, 6 – 7 July 2013 (Part2)

日本地衣学会第12回大会に参加して

My Impression for the JSL 12th Annual Meeting at Kyoto, July 2013/ by WATANUKI Osamu

▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 綿貫 攻：秋田県立大学大学院・生物資源研究科・博士前期課程1年

秋田から梅雨明け間近の京都へ。学会初日は京都御所周辺を徘徊してからの会場入りだったので、暑さが身にしみた。

1日目は総会の後、特別講演とミニシンポジウム。特別講演は京都薬科大の橋本貴美子先生による「キノコとカビの毒成分について」。地衣類に関わる前は博物館でキノコを担当していたこともあり、とても興味深く聴かせていただいた。ニセクロハツについて、以前、群馬のきのこ同好会の知人が、「頼まれて探している」と言っていたのを思いだした。橋本先生のお話によると、ニセクロハツの発生はシイ、カシの林で、

北日本でみられる類似のキノコは同種ではないとのこと。では何なのだろう？キノコの分類は難しい。地衣類についてはあまり毒性が話題にならないが、子嚢菌のカエンタケや、カビの中には猛毒となる種もあるので、「毒地衣」もあるのだろうか？

ミニシンポジウムでは「地衣・微生物研究における科学分析の応用と可能性」と題して、筑波大学の河崎氏による「石造文化遺産の保護と地衣類の無機分析」、京都大学霊長類研究所の澤田氏による「違いのわかるサル？ニホンザルのキノコ食行動から見えること」および秋田県立大学の川上氏による「地衣成分研究にお

ける HPLC の利用」の3つのテーマでの話題提供があった。いずれも、若手の研究者による発表で、熱意が感じられるプレゼンテーションだった。澤田氏の発表は屋久島におけるサルの採食行動におけるキノコ食に関する研究で、サルも毒キノコは避けているらしい。専門家でないと困難な、キノコの同定は DNA を用いて行っているとのこと。地衣類でも DNA のデータベースが整備されれば、いろいろな分野で利用できるであろう。

2日目は一般講演で、15 題の発表があった。私自身、いままで地衣学会の大会や観察会には何度か参加しているが、今回、初めて発表させていただいた。

私事だが、昨年8月に教職を辞し、10 月から秋田県立大学大学院の修士課程で以前から続けていたスミイボゴケ属の分類学的研究を行っている。現在は、主に分子系統からスミイボゴケ属を再評価しようと試みている。多くの人から、「何をいまさら」「将来どうするの?」と言われたが、いろいろな要因が重なったこともあり、一念発起して研究に集中してみようと思に至った。幸いなことに、研究室の先生方や若い学生達にも受け入れてもらい、数十年ぶりの学生生活を楽しんでいる。来年の学会は秋田で開催する予定です。秋田はお米、魚をはじめおいしい食事とお酒が楽しめます。是非ご参加下さい。

第 12 回地衣類観察会（長野県上田市菅平高原）で観察された地衣類

Lichens observed during the 12th Outdoor School on Lichens at Sugadaira Highland, Ueda, Nagano-ken, central Japan (16-17 Nov. 2013) / by HARADA Hiroshi, KINOSHITA Yasuhiro, ANZAI Tadao, SAKATA Ayumi & SUYAMA Mai

>>>>>> 原田 浩¹⁾・木下 靖浩²⁾・安斉 唯夫²⁾・坂田 歩美³⁾・陶山 舞⁴⁾ : 1) 千葉県立中央博物館, 2) 地域活性化委員会関東, 3) 千葉県立中央博物館共同研究員, 4) 筑波大学

観察リスト

場所：長野県上田市菅平高原

観察日：2013年11月16-17日

Anaptychia isidiza トゲヒメゲジゲジゴケ
Arthothelium sp.? ゴマシオゴケ属の一種?
Aspicilia sp. クボミゴケ属の一種
Cetrelia chicitae コフキトコブシゴケ
Chaenotheca sp. ホソピンゴケ属の一種
Cladonia coniocraea ヤリノホゴケ
Cladonia krepelhuberi ヤグラゴケ
Cladonia macilenta コアカミゴケ
Cladonia scabriuscula ササクレマタゴケ
Evernia esorediosa ヤマヒコノリ
Flavoparmelia caperata キウメノキゴケ
Flavopunctelia soledica ヒメキウメノキゴケ
Heterodermia subascendens
 コフキゲジゲジゴケ

Lecanora sibirica モエギイボゴケ
Lecanora sp. チャシブゴケ属の一種
Lepraria sp. レブラゴケ属の一種
Leptogium azureum アオキノリ
Lobaria retigera チチレカプトゴケモドキ
Maronea constans アオチャゴケ
Melanelia olivacea オリーブゴケ
Menegazzia terebrata センシゴケ
Myelochroa galbina チョロギウメノキゴケ
Myelochroa irrugans ウチキウメノキゴケ
Myelochroa metarevoluta
 コフキチョロギウメノキゴケ
Nephroma helveticum ウラミゴケモドキ
Parmelia fertilis トゲナシカラクサゴケ
Parmelia laevior テリハゴケ
Parmelia squarrosa カラクサゴケ
Parmelia sulcata コフキカラクサゴケ
Parmelinopsis spumosa コナヒメウメノキゴケ

<i>Parmotrema chinense</i>	ヤママツゲゴケ	<i>Porpidia albocaerulescens</i>	ヘリトリゴケ
<i>Peltigera degenii</i>	ウスツメゴケ	<i>Punctelia borrieri</i>	ハクテンゴケ
<i>Peltigera praetextata</i>	チチレツメゴケ	<i>Punctelia rudecta</i>	トゲハクテンゴケ
<i>Phaeophyscia endococcinodes</i>		<i>Ramalina conduplicans</i>	カラタチゴケ
	アカハラムカデゴケ	<i>Ramalina geniculate</i> var. <i>geniculata</i>	
<i>Phaeophyscia hirtuosa</i>	シラゲムカデゴケ		ツツシカラタチゴケ
<i>Phaeophyscia limbata</i>	クロウラムカデゴケ	<i>Ramalina sinensis</i>	ヒロハカラタチゴケ
<i>Physciella denigrata</i>	ナメラムカデコゴケ	<i>Schismatomma ocellulatum</i>	メダイゴケ
<i>Physconia grumosa</i>	ハクフンゴケ	<i>Usnea pangiana</i>	ホンドサルオガセ

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに、

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

- *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 122, pp. 453-456: eds. Kinoshita K., Komine M. & Harada H., published by the *Japanese Society for Lichenology*, 15 Feb. 2014.

日本地衣学会ニュースレター 122号

発行日：2014年 2月 15日

編集：木下 薫・小峰 正史・原田 浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科

微生物工学研究室

©2014 日本地衣学会 (© 2014 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。